一九九一・よむいか通信・四半世紀

羽衣国際大学　梨木　昭平

一九九一年当時土曜日午後に学而荘で開催されていた両輪の会で、発行されたばかりの「よむいか通信」が何度か資料として配られていました。九二年二月発行の「両輪」で一年分の「よむいか」が一括掲載され、感激したことをよく覚えております。合計十六号を月別に整理しますと

四月―十八(木曜)・二十七(土曜)

五月―十三(月曜)・十八(土曜)

六月―**七(金曜)**

七月―**十五(月曜)**

九月―五(木曜)・　・二十六(木曜)・**二十八(土曜)**

十一月―十一(月曜)・**十四(木曜)**

十二月―二(月曜)・七(土曜)

一月―**九・九(木曜)**

月曜の発行が多いのは、ひょっとすると日曜日にも編集作業等をされていたのでしょうか。夏休みや冬休みの後にもまとまった発行があります。五月までは澤田先生ご自身の研究活動からの引用文献が多いですが、六月以降高校生の文章の掲載が増えます。まずは、教員自身からのメッセージを発して、その後学習者からの返信を通信に織り込み**(太字日の発行分)**、一年間の発行を構築されていった軌跡は素晴らしいです。

現在、自分自身は教員免許取得希望の大学生に対して教職科目を担当しておりますが、先生の「よむいか」通信は、一年間の継続発行物のひとつのモデルとして参考にさせていただいております。

澤田先生。長田高校での先生の卒業生(以前話題にしておりました神戸大生です)は、今でもずっと演劇活動を継続しております。

「よむいか通信」の読者を含め、先生が蒔かれた表現活動の種はその後も順調に各方面で育まれ、色々なところで開花しております。

先生ご自身のされた表現活動とともに、作品が生命を持ち続けているのだと思っております。